
平成20年度予算第一特別委員会質問要旨

○ 局別審査 平成20年2月26日

質問者（質問順）

- 1 瀬之間 康 浩 委員（自民党）
- 2 萩原 隆 宏 委員（民主党）
- 3 望月 康 弘 委員（公明党）
- 4 菅野 義 矩 委員（民ヨコ）
- 5 若林 智 子 委員（無所ク）
- 6 関 美恵子 委員（共産党）

こ ども 青 少 年 局

局 別 審 査

1 瀬之間 康 浩 委員（自民党）

1 ワーク・ライフ・バランスの推進について

- (1) ワーク・ライフ・バランス推進の基本的な考え方について伺いたい。
- (2) 両立支援アドバイザー派遣モデル事業の実績と評価及び20年度事業内容について伺いたい。
- (3) 事業所内保育施設設置に対する企業のニーズはあるのか。
- (4) 事業所内保育施設の運営費についても補助する考えはないのか。
- (5) ワーク・ライフ・バランスを推進するための啓発についてはどのように行っていくのか。

2 保育所の整備について

- (1) 19年4月の本市における待機児童数と待機児童数が多い上位5区について伺いたい。
- (2) 20年度予算の保育所整備量が、19年度に対比して減少しているのは、どのような理由によるのか。
- (3) 今後の保育所整備は、どのような手法で進めていくのか。
- (要望) 下永谷二丁目方面保育所整備にあたっては、地域との連携をすすめるとともに、交通対策や環境整備として保護者の車利用等に十分配慮した対応などを行うことを要望します。

3 保育所費負担金（保育料）について

- (1) 税制改正に伴い保育料にも影響が出ると考えるが、どのように対応するのか。
- (2) 本市の保育料は、各世帯の収入に対して適正な額となっているのか。
- (3) 保育料滞納に対する収納対策の強化策とその効果はどうか。
- (4) 保育料の徴収率を向上させるために、園が直接保育料を徴収することについてどう考えるか。

(5) 20年度に向けて、今後、どのような収納対策を講じるつもりなのか。

4 地域療育センターについて

(1) 地域療育センターの初診件数の推移と、現在の各センターの初診待ち期間について伺いたい。

(2) 初診待ち期間の長期化に対してどのような対策を講じているのか。

(3) 利用希望者が増加している主な理由について伺いたい。

(4) 発達障害に対して、どのような支援を行っているのか。

(5) 学校支援事業の実施状況について伺いたい。

(6) 学校からの反応はどうか伺いたい。

(7) 今後どのように事業を進めていくのか。

(要望) 学校支援事業に十分な人員体制の確保と学校に対する積極的なPRをお願いします。また、子どもたちの学校生活を継続して応援していくために、今後は中学校を対象とした学校支援についても検討することを要望します。

5 青少年の自立支援の推進について

(1) よこはま若者サポートステーションの開設以来の利用状況はどのようになっているのか。

(2) 精神疾患や発達障害の疑いのある若者が増加する傾向に対して、どのような対応が行われているのか。

(3) サポートステーションを増設する計画はないのか。

(4) 地域ユースプラザの開設以来の利用状況はどのようになっているのか。

(5) 地域活動拠点と同じ建物としたことによる効果はあるのか。

(6) ユースプラザ及び青少年の地域活動拠点として、地域との連携を図るうえで、どのような取組が行われているのか。

(7) 2か所目のユースプラザの具体的な開設場所は決まっているのか。決まっていなければ、どのような考え方で選定していくのか。

(8) 若者自立塾を実施するに至ったのはなぜなのか。

(9) 「よこはま型」とする特色は何か。

- (10) よこはま型自立塾では主にどのようなプログラムで事業が展開されるのか。
- (11) 運営法人についてはどのような法人を予定しているのか。また、どのように選定していくのか。
- (要望) 次代を担う若者、青少年の自立支援に全力を挙げて取り組まれるよう要望します。

6 児童虐待防止対策について

- (1) 児童虐待の未然防止や児童虐待対応のために、本市の児童相談所が行っている特徴的な取り組みは何か。
- (2) 19年度、学校や保育園、民生委員など地域の関係者に、児童虐待防止の意識を高めるために行った取り組みについて伺いたい。
- (3) 20年度の「こども虐待防止キャンペーン」における、主な取り組みは何か。
- (4) 市民啓発について、区との連携も必要と考えるが、今後どのように取り組んで行くのかその考え方を伺いたい。
- (要望) 児童虐待防止の活動を広く市民に伝えていくことが非常に重要と考えますので、継続的に取り組まれるよう要望します。

2 荻原隆宏委員（民主党）

1 こんにちは赤ちゃん訪問事業について

- (1) 事業のねらいは何か。
 - (2) 訪問先では具体的にどのようなことを行うのか。
 - (3) 同意をいただけない場合はどのように対応するのか。また、全数訪問を達成するための方策をどのように考えているのか。
 - (4) 現行の母子訪問事業とこんにちは赤ちゃん訪問事業のそれぞれの役割は何か。また、この二つの事業はどのように連携していくのか。
 - (5) 訪問先において、より多様な子育てニーズを把握するアンケート等を取り、今後の子育て施策に反映する一助にするべきと考えるが、見解を伺いたい。
- (要望) 局際的な事業連携を行い、現場からフィードバックされた情報を適切に施策に反映し、オール横浜の体制で0歳児を支えるよう要望します。

2 保育所の整備・運営について

- (1) 19年度の待機児童数が前年度と比べて増えた理由は何か。
- (2) 19年度保育所整備をどのように進め、また整備による定員増はどのくらい実現できる見込みとなっているのか。
- (3) 増加する民間の認可保育所における保育の質の確保のために、どのような対応をとっているのか。
- (4) 産休明け保育等を含め、多様化する保育ニーズをどのように把握しているのか。
- (5) 民間移管が進むなか、横浜市全体で保育ニーズへの対応は十分にできているか。
- (6) 民間移管が進むなか、あらためて公立保育園の存在意義が問われると思うが、今後の公立保育園は民間保育園と比べてどのような役割を果たしていくのか、考えを伺いたい。

3 在宅子育て支援について

- (1) 子育てサポートシステムはどのように、またどの程度活用されているのか。
 - (2) 在宅で子育てしている保護者が、子育てサポートシステムを使いやすくするための工夫を行っているか。
 - (3) リフレッシュのための一時預かり事業を始めるに至ったのはどのような経緯か。
 - (4) リフレッシュのための一時預かり事業を実施する場所、運営主体の目途はついているのか。
- (要望) より日常生活にかかわる形で子育て支援を多様に行い、子育てに悩む父母の良きサポーターとして最高の子育て支援を局一丸となって行っていくことを要望します。

4 よこはま若者サポートステーションについて

- (1) よこはま若者サポートステーションの事業目的、趣旨はどのようなものか。
 - (2) これまでの就職などに結びついた実績はどのようなものか。
 - (3) サポートステーションが協力企業の獲得に対してどのような努力がなされているのか。また、企業との連携の困難さを乗り越えて若者の未来を切り開くためにどのような方策を考えているか。
- (要望) 地域力で若者の人生を支えていく体制の構築を要望します。
- (4) よこはま型若者自立塾、事業の狙いは何か。
 - (5) サポートステーションとの連携があるかと思うが、どのように考えているか。
 - (6) 現代の青少年の課題に正面から立ち向かい自立支援をより効果的に行うために、また青少年が夢と希望に満ちた人生を生きるために横浜ができることは何かということについて、所信を伺いたい。

5 次世代育成支援行動計画について

- (1) 前期計画の残り2年間、計画達成に向けて力を注ぐべきことは何か。
- (要望) 次世代育成支援をしっかりと行っていくことを要望します。

3 望 月 康 弘 委員（公明党）

1 次世代育成支援行動計画の後期計画策定に向けたニーズ調査について

- (1) 今回のニーズ調査の概要及び、前回と比較して特長的な部分があれば伺いたい。
- (2) ニーズ調査にあたり、地域毎のニーズや課題の違い等の把握についてはどのように考えているのか。
- (要望) 前回とは社会・経済状況も異なることから、質問項目については十分に検討した上で調査することを要望します。

2 こんにちは赤ちゃん訪問事業について

- (1) 訪問する家庭を4か月までの赤ちゃんのいる家庭としたのはなぜか。
- (2) 地域の訪問員の人材育成をどのようにするのか。
- (3) 地域の訪問員をフォローする体制も必要と考えるがどうか。

3 幼児教育研修・交流事業の拡大について

- (1) 幼保小教育連携事業の19年度実績について伺いたい。
- (2) モデル園・モデル校事業では、19年度どのような効果があったのか。また、保護者の評価はどうか。
- (3) モデル園・モデル校事業の拡大があげられているが、その趣旨について伺いたい。
- (4) モデル園・モデル校事業拡大の具体的な事業内容と予算について伺いたい。
- (5) 教育委員会との連携はどのようになっているのか。
- (要望) 幼保小連携事業が一層定着していくことを要望します。

4 児童虐待に対応する児童相談所の機能強化について

- (1) 19年度の児童相談所一時保護所における、4月から12月までの平均入所人数と最大入所人数、また、定員の超過があったか伺いたい。

(2) 子どもの施設入所に当たり親の同意が得られず、児童福祉法による家庭裁判所による承認を申請した19年度の件数とこれまでの具体例を伺いたい。

(3) 外部の専門家による支援を強化するねらいについて伺いたい。

(要望) 深刻化する児童虐待に対し、対応を強化していくことを要望します。

5 青少年相談センターのあり方について

(1) 青少年相談センターは、当初どのような目的で設置されたものなのか。

(2) 不登校やひきこもり状態にある青少年に関する相談状況はどのようになっているか。

(3) 教育委員会における不登校・ひきこもり施策との連携はどのようになっているのか。また、課題は何か。

(4) ユースサポーター訪問事業のこれまでの実績と今後の見通しはどうか。

(5) 地域ユースプラザとの連携についてはどのような状況にあるのか。

(6) 今後、青少年相談センターをどのようにしていくのか、そのあり方について伺いたい。

(要望) 青少年相談センターの更なる機能拡充と増設を視野に入れた検討の開始を要望します。

6 重症心身障害児者医療提供体制支援事業について

(1) 重症心身障害児者医療の課題は何か。

(2) 重症心身障害児者とその家族への「医療機関受診状況アンケート」では、どのような意見が多く寄せられたのか。

(3) 市内には重症心身障害児者に対応している医療機関がどのくらいあるのか。

(4) 今年度の事業を踏まえ、20年度には、どのような取り組みを行なっていくのか。

(要望) 在宅で生活を送っている重症心身障害児者と家族が安心して適切な医療を受けられるように、着実に取り組むことを要望します。

7 放課後児童育成事業について

- (1) 20年度において、どのような方針で放課後児童施策を推進していくのか。
 - (2) キッズクラブの実施か所をどのように選定しているのか。
 - (3) 現在、どのような法人がキッズクラブの運営に携わっているのか。
 - (4) キッズクラブの運営の質の向上を図るため、外部評価を導入しないのか。
 - (5) 20年度のはまっ子ふれあいスクールについて、特別支援学校で新たに1か所開設するとのことだが、どこでどのように実施するのか。
 - (6) 放課後3事業において、現在、障害児の利用状況はどのようになっているのか。
 - (7) 放課後3事業を推進していくため、担い手となるスタッフの人材養成にどのように取り組んでいくのか。
- (要望) 今後ともスタッフの人材養成に力を入れるとともに、子どもたちが放課後の活動を通じて元気に伸び伸びと育っていくことができるよう、さらに事業の推進を図っていくことを要望します。

4 菅野義矩委員（民ヨコ）

1 母子寡婦福祉会について

- (1) 18年度に発生した支部会計の問題について、実際の会計処理をどのように行ったのか、また、その後の状況はどうか。
 - (2) 16年度の県監査で支部会計の処理が不適切であると指摘されたが、どのように改善したのか。
 - (3) 現在の理事の構成はどうなっているのか。
 - (4) 市は、母子寡婦福祉会に対して、どのように支援していく考えなのか。
- (要望) 公正公平に時代ニーズをしっかりと把握して支援していくことを要望します。

2 家庭的養育が出来る環境づくりについて

- (1) 本市における18年度の里親の登録数、里親への委託児童数及び要保護児童に占める里親の委託児童数の割合はどうなっているか。
 - (2) 本市が国の数値目標を達成するための課題は何か。
 - (3) 里親制度周知のために行う10月の里親月間の広報活動において、重点的に取り組むことは何か。
 - (4) 里親への支援の向上により、里親の拡充にどのような効果があるのか。
 - (5) 本市のファミリーグループホームの制度について、今後拡充する考えはないか。
- (要望) 里親制度、地域小規模児童養護施設、ファミリーグループホームなど、色々な手法を駆使して、家庭的な養育の基盤整備を行うことを要望します。

3 親と子のつどいの広場事業について

- (1) 親と子のつどいの広場の19年度の利用実績はどうなっているか。
- (2) 利用者の評価や声はどうか。
- (3) どのような子育て相談が多いのか。
- (4) 商店街の空き店舗などを利用した事例はあるのか。あるとしたら、その効果

は何か。

(5) 親と子のつどいの広場を展開していくにあたっての課題と展望はどのようなものか。

5 若林智子委員（無所ク）

1 認可保育園で実施している一時保育の状況について

- (1) 実施園の拡充状況と、1園当たり利用児童数の過去3年間の実績はどうか。
- (2) 利用要件の割合についてはどのような傾向があるのか。
- (3) 雇用就労形態の多様化が進み、非正規雇用者の増加が進んでいるが、横浜市の実態はどうか。
- (4) 入所要件の緩和や多様な働き方に応えるための保育所のあり方について、考えを伺いたい。

2 ワーク・ライフ・バランスについて

- (1) 保育制度と労働政策の総合的な施策展開のために、横断的な検討の場が必要と考えるが、どのように取り組まれるのか。

3 一時預かりパイロット事業について

- (1) 「民間団体一時預かり実態調査」結果からはどのような実態を把握されたのか、また、今後の施策にどのように活かしていくのか。
- (2) 事業の趣旨、目的について伺いたい。
- (3) 保育園で行う一時保育事業とパイロット事業はどのような違いがあるのか。
- (4) リフレッシュを主たる目的にした理由は何か。
- (要望) 利用の要件については、柔軟な対応をすることを要望します。
- (5) 委託事業の対象となる事業の条件は何か。
- (6) 委託を行うにあたって、保育の質をどのように担保していくのか。
- (7) 利用時間、回数、利用料金等はどのように設定されるのか。
- (8) 利用料金を800円とした考え方、認可保育所の一時保育との利用料金の格差についてどのように考えるか。

4 横浜子育てサポートシステムについて

- (1) 昨年の実績はどうか、経年の実績はどのように変化しているか。
 - (2) 瀬谷区、鶴見区の活動援助実績は372件、476件となっているが、どのようにとらえているのか。
 - (3) 瀬谷区、鶴見区では、生活保護受給率等も高く、利用料金の問題だけでなく、当事者のニーズ発信力が弱いことやコーディネートの問題からサービスが必要な人に届いていないと思うが、考えを伺いたい。
 - (4) 事務局強化モデル事業の内容とそれに伴って、区支部にかかる経費がどう変わったのか。
- (要望) 一時預かりパイロット事業については、ニーズや事業手法を検証するため、複数箇所での実施を要望します。

1 妊婦健康診査事業について

- (1) 本市において、妊婦健康診査の補助回数を5回に留めた理由は何か。
- (2) 本市において、少子化対策の面からはどのような配慮がされたか伺いたい。
- (3) 妊娠中に受診する健康診査の一般的な受診回数や健診内容、1回あたりの費用について伺いたい。
- (4) 初回の公費負担を多くする考えはないか。また、妊婦健康診査の1回あたりの補助額を上げて、さらに妊婦の負担の軽減を図るべきと考えるがどうか。
(要望) 初回の補助金額を多くすることを要望します。